

● 地域提案型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	インドネシア
2. 事業名	カムムリシロムク保護事業
3. 事業の背景と必要性	カムムリシロムク（スズメ目・ムクドリ科）は、IUCN（国際自然保護連合）のレッドデータブックのカテゴリーでCR（近絶滅種）に指定されている。横浜市は平成16年度より草の根技術協力事業（地域提案型）にて技術協力を実施。右事業終了評価により（1）本種の放鳥後のモニタリング、（2）環境教育の推進が今後の課題と判明し、今次事業を実施することとなった。放鳥後の小型電波発信機によるモニタリングは、過去に数回実施された本種の放鳥による成果が十分に得られていない原因を研究するために重要である。これまでに、西バリ国立公園関係者やAPCB（カムムリシロムク保全協会）関係者に対し、小型電波発信機を用いた行動調査についての技術協力も実施してきたが、今次事業では実際に小型発信機を装着した本種の放鳥個体のモニタリング調査を実施し、その調査結果から得られたデータを解析することで放鳥後の生存率向上を図る。また、血統管理における技術協力では近親交配による遺伝的劣化を防止するためには、現時点における分子レベルからの繁殖個体間の血縁情報が不可欠であるため、本種の近親交配による遺伝的劣化を食い止めるべくインドネシア研究機関による分子レベルでの血縁解析技術における技術協力も実施する。カムムリシロムクの野生復帰実現に向け、これら諸問題にインドネシア側関係者と共に取組むため本事業を実施していく。
4. 事業の目的	カムムリシロムクの野生復帰及び近親交配の回避
5. 対象地域	西バリ国立公園（バリバラト国立公園）
6. 受益者層	西バリ国立公園スタッフ、カムムリシロムクの繁殖に関連した研究者及びその周辺に住む住民
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. カムムリシロムクの行動解析により、カムムリシロムク野生復帰に必要な環境要因を特定することで、バリバラト国立公園内のカムムリシロムク野生復帰に向けた環境整備の基盤が確立される。 2. カムムリシロムクの分子レベルでの血縁関係を把握することにより、近親交配の影響を最小限に抑え、繁殖率が向上される。 3. カムムリシロムク保護に関する専門家会議で、本活動から得られた調査研究成果が発表されると共に、自然環境保護思想が普及啓発される。
8. 実施期間	2008年8月～2010年3月
9. 事業の実施体制	横浜市環境創造局による専門家派遣及び研修員の受入
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	横浜市環境創造局（神奈川県横浜市）
2. 対象国との関係、協力実績	2003年にインドネシア国林業省とMOU（覚書）を締結し、7年間で100羽のカムムリシロムクを日本より西バリへ贈呈中。2004年より草の根技術協力事業（地域提案型）にて西バリ国立公園を中心としてカムムリシロムクの繁殖技術協力を実施。